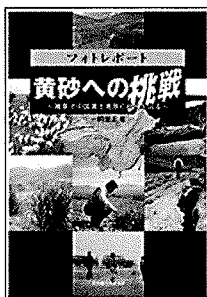


## 新刊書紹介

**黄砂への挑戦**

～雑草で中国黄土高原の緑化を図る～



一前宣正／著

発行：全国農村教育協会

「黄砂」は、春の季語とされているように、日本には3～5月頃飛来する。

大昔から見られる現象であるが、ここ10年ほど飛来量が急増し、天気予報でも「黄砂情報」が提供されるなど、注目を集めている。

日本では“空が曇る”，“洗濯物が汚れる”といった程度の影響しかない黄砂だが、このまま放置するとやがて、現在中国大陸で見られているような、深刻な被害…一晩で数ミリもの黄砂が町全体に積もる、健康を害する、航空機が止まる等…をもたらすという。

また、従来、自然現象と認識されてきた黄砂だが、実は人為的原因に拠るところが多いのだそうだ。すなわち、森林伐採や草原開墾、過放牧などにより、砂漠化が進み、黄砂の発生に拍車をかけているという。

黄砂を抑えるすべはないのか？…と暗澹たる思いがするが、本書は、黄砂抑制の可能性を提示する内容であり、読むと希望が湧いてくる。

「黄砂への挑戦」は、黄砂の根本問題を見据え、二十余年も前から日中共同プロジェクトの主要メンバーとして活躍してきた、日本人研究者・一前宣正氏の、写真によるレポートである。

黄砂の発生場所のひとつである「黄土高原」

を、雑草を植えることで「緑化」するのを目的とした日中共同プロジェクト、その研究のプロセス・現地の状況などを、写真でわかりやすく紹介している。

本書によれば、著者らは現地の状況（植生～人々の暮らしまで）をつぶさに調べ、緑化を可能にし、かつ現地の人々を経済的に支えることができる2種の雑草を選抜したとのことである。

著者らが試験した雑草は、実に2万種に及ぶ。その中から、わずか2種を選抜するプロセスは、気の遠くなるような作業であると想像するが、著者はあくまで謙虚に、雑草の持つ力への感謝の思いを述べている。

雑草は有史以前より存在し、人類は資源としての雑草の力を借りることで、文明を発展させてきた、という立場である。著者の、自然への真摯なまなざしは、黄砂抑制への希望を与えてくれるとともに、雑草に象徴される「自然」への、畏敬の念を呼び覚ましてくれる。

本書の構成は、計6章から成っている。序章「黄砂とは？」では、黄砂の基礎知識と著者の参加した共同プロジェクトの概略を紹介。第1章「黄砂の発生状況と砂漠化が進む黄土高原」、第2章「黄土高原の人々の暮らし」、第3章「雑草による緑化と黄砂を抑える試み」では、著者とともに黄土高原を旅するという方法で、研究のプロセスと現地の状況を解説する。著者による民族色豊かな写真も見ごたえがある。第4章「雑草の重要性」、第5章「雑草随想」では、雑草の重要性について、文学の造詣深い文章で考察している。読後、「黄砂への挑戦は、一方で“雑草とはなにか”という問いに対する挑戦であった」という著者の言葉が胸に残った。

●定価 1,953 円（税込）、発行：全国農村教育協会（TEL03-3839-9160, FAX03-3833-1665, メール hon@zennokyo.co.jp）。